

見出しをクリックすると該当ページにジャンプします.

目次

第1版第8刷	2
第1版第7刷	4
第1版第6刷	5
第1版第5刷	6
第1版第4刷	7
第1版第3刷	8
第1版第2刷	9
第1版第1刷	11

第1版第8刷

章	頁	行・場所	誤（修正前）		正（修正後）
1	9	10	とくに	⇒	$\mathbf{a}, \mathbf{b} (\neq \mathbf{0})$ が
1	9	11	であるから,	⇒	である. より一般に,
1	9	13	がわかる.	⇒	と定める.
1	31	-1	(x_1, \dots, x_n)	⇒	(x_1, \dots, x_n)
2	37	1	すなわち	⇒	[削除]
2	37	3	なっている.	⇒	なる.
2	37	3	ならば, $m = n = r$	⇒	ならば, 最終行が $\mathbf{0}$ とはなり得ないので, $m = n = r$
2	43	-8	という.	⇒	という. A を係数行列, $(A \mathbf{b})$ を拡大係数行列ともよぶ.
2	45	6	$x_{k(i)}$	⇒	$x_{k(t)}$
2	52	-6	そのときは明らか.	⇒	そのときは定理 2.5 に注意すれば明らかである.
3	58	3	がある) ¹⁾ .	⇒	がある) ¹⁾ . 本章 (および次章) では, 特に断らないかぎり, 正方行列を扱う.
3	67	-6	$= \phi^{-1}$	⇒	$= \phi^{-1}$ [スペース]
3	70	8, 図 3.2	[あみだくじ]	⇒	[下にも上と同じ番号を付記する]
3	80	-4	証明しよう.	⇒	証明しよう. $n = 2$ の場合に雰囲気をつかむとよい.
3	82	2,5[2箇所]	$\tau^{-1}\sigma$	⇒	$\sigma \circ \tau^{-1}$
3	83	-2	はない.	⇒	はない. (系 2.12, 定理 2.17, 定理 3.9, 定理 3.16 から示される.)
3	97	1, 図 3.3	[あみだくじ]	⇒	[下にも上と同じ番号を付記する]

章	頁	行・場所	誤（修正前）		正（修正後）
4	109	13	すなわち, 複素数を 考えている場合に は, 固有多項式は	⇒	以下, 小節4.2.1では複素 数の範囲で考える. すな わち, 固有多項式は
4	109	14	1つであることを 忘れないこと).	⇒	1つである).
5	133	1	連立1次同次方程 式	⇒	斉次の連立1次方程式
解答	273	1	同形	⇒	同型

第1版第7刷

章	頁	行・場所	誤（修正前）		正（修正後）
6	160	2	表現行列求めよ	⇒	表現行列を求めよ

第1版第6刷

章	頁	行・場所	誤（修正前）		正（修正後）
1	8	図1.7	点線	⇒	矢印
1	10	1	0	⇒	(0, 0)
1	15	-5	0	⇒	0
2	56	3, 問題3	$M(m, n : K)$	⇒	$M(m, n; K)$
3	57	-6	一瞬で	⇒	[削除]
3	57	-4	瞬時に	⇒	[削除]
3	63	13	どの2人も同じ席へは 移らない	⇒	1つの席に2人が座る ことはない
3	71	-9	A^{-1}	⇒	$(A_\sigma)^{-1}$
3	71	-6,-5	$a_{i,j}$	⇒	a_{ij}
3	71	-5,-4	行列の積と置換の積が 対応していることから 分かる	⇒	成分を計算し行列の 積と置換の積とが対応 していることを示せば よい
3	72	-8	4.1節	⇒	4.5.1節
3	76	-2	(A, B, C)	⇒	$S(A, B, C)$
3	93	4	次の行列式を	⇒	次の行列 A の行列式を
4	117	13	$\sigma : \{ j \rightarrow i_j \}$	⇒	$\sigma : j \rightarrow i_j$
4	120	7,8	外積が3項数ベクトル の場合に対応している	⇒	4項数ベクトルの場合 に, p.118 注意の類似 を考える
5	130	10	\mathbf{x}_n	⇒	\mathbf{x}_r
6	151	-8	\mathbf{u}_t	⇒	\mathbf{u}_r
解答	253	-11	$E + A$	⇒	$E - A$
解答	256	-7	$c \neq 0$	⇒	$b \neq 0, c \neq 0$
解答	256	-7	$\frac{1}{c}$	⇒	b
解答	259	-2	0 なので	⇒	0 なので

第1版第5刷

章	頁	行・場所	誤（修正前）	正（修正後）

なし

第1版第4刷

章	頁	行・場所	誤（修正前）		正（修正後）
1	12	7	$z = \frac{-1 + \sqrt{3}\sqrt{-1}}{2}$	\Rightarrow	$z = \left(-\frac{1}{2}\right) + \left(\frac{\sqrt{3}}{2}\right)\sqrt{-1}$
4	101	8, 2つ目の 行列の (1, 1) 成分	x	\Rightarrow	x^2
6	182	-1	線形写像	\Rightarrow	線形変換
6	184	3	W の部分空間	\Rightarrow	V の部分空間
7	194	8	V_μ の元と V_ν の元	\Rightarrow	V_λ の元と V_μ の元
7	200	9	ユニタリ-行列	\Rightarrow	ユニタリ行列
7	201	13	ユニタリ-変換	\Rightarrow	ユニタリ変換
7	201	13	ユニタリ-行列	\Rightarrow	ユニタリ行列
8	214	1	2次曲線は6種類	\Rightarrow	2次曲面は6種類
8	214	1	この他に2次曲線 の柱面	\Rightarrow	この他に楕円柱面など2次 曲線の柱面
8	225	-5	写す	\Rightarrow	移す
8	225	-2	写す	\Rightarrow	移す
8	230	2	上で単射,	\Rightarrow	上で全射なので単射でもあり

第1版第3刷

章	頁	行・場所	誤（修正前）		正（修正後）
6	155	18	$f(\lambda \boldsymbol{x}) = \lambda f(\boldsymbol{x}) = \lambda \boldsymbol{x}'$	\Rightarrow	$f(\lambda \boldsymbol{x}') = \lambda f(\boldsymbol{x}') = \lambda \boldsymbol{x}$
6	161	-2	$A = (a_{ij})$ により	\Rightarrow	$A = (a_{ij}) = (\boldsymbol{a}_1, \dots, \boldsymbol{a}_n)$ により
6	176	3	る.	\Rightarrow	る. ただし, $\boldsymbol{x}_1, \boldsymbol{x}_2 \in V, \lambda \in K$ とする.
6	180	1	実計量ベクトル空間	\Rightarrow	計量ベクトル空間
6	182	16	線型	\Rightarrow	線形
6	187	-4,-7	線型	\Rightarrow	線形
7	190	-10	に対し,	\Rightarrow	に対し, 標準内積では

第1版第2刷

章	頁	行・場所	誤（修正前）		正（修正後）
2	55	6~10	証明中の「実際」以降の全文	⇒	実際, $C'^{-1}C = (C_{ij})$ の第 r' 行までに着目すると, ゼロでない列は高々 r 個しかない. そこで最初の第 r' 行までを行の基本変形により階段行列に変形してみれば, $r' > r$ なので r' 番目の行はゼロとなる. これは, (C_{ij}) が正則であることに反する.
3	89	-4	a_{ij} の余因子	⇒	A の (i, j) 余因子
4	108	2,3	$P\tilde{P} =$	⇒	$\tilde{P}P =$
4	108	8	$(xE_n - A)B(x) =$	⇒	$B(x)(xE_n - A) =$
4	108	13	$(xE_n - A)\sum_{i=0}^{n-1} B_i x^i =$	⇒	$\sum_{i=0}^{n-1} B_i x^i (xE_n - A) =$
4	108	13	$\sum_{i=0}^{n-1} AB_i x^i$	⇒	$\sum_{i=0}^{n-1} B_i A x^i$
4	108	14	$a_0 E_n = -AB_0$	⇒	$a_0 E_n = -B_0 A$
4	108	14	$a_i E_n = B_{i-1} - AB_i$	⇒	$a_i E_n = B_{i-1} - B_i A$
4	108	-4 ~ -2	この条件から … 証明できる.	⇒	[削除]
4	108	欄外	2) 2つの…という.	⇒	[削除]
4	109	2	$(B_{n-2} - AB_{n-1})A^{n-1}$	⇒	$(B_{n-2} - B_{n-1}A)A^{n-1}$
4	109	2	$(B_0 - AB_1)A$	⇒	$(B_0 - B_1A)A$
4	109	2	AB_0	⇒	B_0A
4	111	2	特性多項式	⇒	固有多項式
4	113	11,13	1次独立	⇒	線形独立
4	118	2	$= \sum_{\sigma \in S_n} \varepsilon(\sigma) a_{\sigma(1),1}$ … $a_{\sigma(n),n} =$	⇒	$= (\sum_{\sigma \in S_n} \varepsilon(\sigma) a_{\sigma(1),1} \cdots$ $a_{\sigma(n),n}) f(\mathbf{e}_1, \cdots, \mathbf{e}_n) =$

章	頁	行・場所	誤 (修正前)		正 (修正後)
4	118	8	ベクトルとして	⇒	実ベクトルとして
5	124	-2	できる.	⇒	できる. (例題3.12では単に写像とみていたが, ここでは線形写像であることを強調して L_A という記号を用いる.)
5	132	5, 問題1	示せ.	⇒	示せ. (実は, 例題3.12で写像として既に確認してある.)
6	137	15	など用いなければ ない	⇒	などを用いなければならない
6	146	16	であり, $\mathbf{v}_1, \dots, \mathbf{v}_n$ は	⇒	であり, $\mathbf{v}_1, \dots, \mathbf{v}_n, \mathbf{v}_{n+1}$ は
6	178	3	まとめておこう.	⇒	まとめておこう (例題1.2を参照).
6	178	5	$\ \mathbf{x} + \mathbf{y}\ $ $\leq \ \mathbf{x}\ + \ \mathbf{y}\ $	⇒	$ \ \mathbf{x}\ - \ \mathbf{y}\ $ $\leq \ \mathbf{x} + \mathbf{y}\ $ $\leq \ \mathbf{x}\ + \ \mathbf{y}\ $
7	185	-6	α に属する固有 ベクトル	⇒	α に属する (または固有値 α の) 固有ベクトル
解答	251	-1	$4(1 - \dots = 0$	⇒	$(1 - \dots = \mathbf{0}$
解答	256	9	$\varepsilon((1, 2, 3))2 \times 1 \times 3$	⇒	$\varepsilon((1, 2, 3))2 \times 1 \times 1$
解答	256	9	$\varepsilon((1, 3, 2))2 \times 1 \times 1$	⇒	$\varepsilon((1, 3, 2))3 \times 2 \times 1$
解答	256	9	$= 0 - 4 - 1 - 0$ $+ 6 + 2 = 3$	⇒	$= 0 - 4 - 1 - 0 + 2 + 6 = 3$
解答	256	11, 3つ目の 行列の 第2行	$\frac{1}{c}$ 0	⇒	0 $\frac{1}{c}$

第1版第1刷

章	頁	行・場所	誤 (修正前)		正 (修正後)
1	4	-3	$\begin{pmatrix} -c_1 \\ c_1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} c_2 \\ c_2 \end{pmatrix}$	\Rightarrow	$\begin{pmatrix} -c_1 \\ c_1 \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} c_2 \\ c_2 \end{pmatrix}$
1	19	-2, 右側行列内	$\begin{matrix} b_{11} & b_{12} & \cdots & b_{1l} \\ b_{i1} & b_{i2} & \cdots & b_{il} \\ \vdots & \vdots & & \vdots \\ b_{n1} & b_{n2} & \cdots & b_{nl} \end{matrix}$	\Rightarrow	$\begin{matrix} b_{11} & \cdots & b_{1k} & \cdots & b_{1l} \\ b_{21} & \cdots & b_{2k} & \cdots & b_{2l} \\ \vdots & & \vdots & & \vdots \\ b_{n1} & \cdots & b_{nk} & \cdots & b_{nl} \end{matrix}$
1	22	8	行列 (a_{ji}) を	\Rightarrow	行列を
2	36	10	$a_{ik(i)} = 1$	\Rightarrow	$a_{1k(1)} = a_{2k(2)} = \cdots = a_{rk(r)} = 1 \ (r \leq m)$
2	36	11	$k(1) < k(2) < \cdots < k(r) \ (r \leq n)$	\Rightarrow	$k(1) < k(2) < \cdots < k(r) \leq n$
2	37	11	$k(r)$	\Rightarrow	$k(r')$
2	37	-6,-7, 4箇所	Q_r	\Rightarrow	Q_s
2	43	3, 列ベクトル内	b_n	\Rightarrow	b_m
2	43	8	連立1次方程式 (2.3)	\Rightarrow	連立1次方程式 (2.1)
2	47	4	1次元数ベクトル	\Rightarrow	1項数ベクトル
2	49	3	零列ベクトル	\Rightarrow	ゼロ列ベクトル
2	50	-5	次行列	\Rightarrow	行列
2	51	2,7,8, 4箇所	次行列	\Rightarrow	行列
3	63	1行目2箇所	OQ	\Rightarrow	OR
3	82	11	s 行を r 倍して t 行に加える	\Rightarrow	t 行を r 倍して s 行に加える
3	84	1行目1箇所 3行目2箇所 4行目2箇所 6行目1箇所 6つの行列式 の (4,2) 成分	$2\sqrt{2}$	\Rightarrow	$2 + 2\sqrt{2}$

章	頁	行・場所	誤 (修正前)		正 (修正後)
3	85	5	-16	⇒	16
3	89	-3	$((-1)^{i+j}A_{ij})$	⇒	$((-1)^{i+j} A_{ij})$
3	89	-2, 行列の (n, 2) 成分	$(-1)^n A_{2l} $	⇒	$(-1)^n A_{2n} $
3	90	-5	$\begin{pmatrix} a_{22} & -a_{12} \\ -a_{21} & a_{11} \end{pmatrix}$	⇒	$\begin{pmatrix} -1 & -3 \\ -1 & 2 \end{pmatrix}$
3	91	4	多項式をとっている	⇒	多項式となっている
3	95	4	$\phi_1 = hi_2$	⇒	$\phi_1 = \phi_2$
3	95	10	$= \phi_A(\phi_B(\mathbf{v}))$	⇒	$\phi_A(\phi_B(\mathbf{v}))$
4	101	14	$x^3 + x^2 - x + 4$	⇒	$x^3 + x^2 - x + 5$
4	109	3	$= 0$	⇒	$= O$
4	109	-5	$n \times n$	⇒	n 次
4	117	6,9,15	$(\mathbf{a}_1, \dots, \mathbf{a}_n)$	⇒	$(\mathbf{v}_1, \dots, \mathbf{v}_n)$
4	118	2	$(\mathbf{a}_1, \dots, \mathbf{a}_n)$	⇒	$(\mathbf{v}_1, \dots, \mathbf{v}_n)$
4	121	問題 4(2)	整数解をもつ a を	⇒	整数解をもつ整数 a を
6	145	1	1 次独立	⇒	線形独立
7	195	8	1 次結合	⇒	線形結合
8	210	-1	$\begin{pmatrix} I & O \\ O & Q \end{pmatrix}$	⇒	$\begin{pmatrix} E & O \\ O & Q \end{pmatrix}$
8	217	定理 8.5(1)	$A_0 = B_0 = I$ (単位行列)	⇒	$A_0 = E$ (単位行列), $B_0 = \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & -1 \end{pmatrix}$
8	217	-3,-1	$= I$	⇒	$= E$
8	222	7	$= I$	⇒	$= E$
9	244	-6	$f^i(\mathbf{z}_j)$	⇒	$f^{d_j-1}(\mathbf{z}_j)$
9	247	8	P^{-1}	⇒	P_i^{-1}
解答	251	-1	$4(1 - \dots = 0$	⇒	$(1 - \dots = \mathbf{0}$
解答	261	3	m_i	⇒	x_i
解答	271	中段左図	$c = 0$ の場合	⇒	$c = 1$ の場合
解答	271	中段右図		⇒	$c = 0$ の場合